

韓国の著名漫画家ホ・ヨンマン画伯「宮崎の旅」 ～神話のふるさと、「宮崎」に行く～

クリアソウル事務所では、韓国の著名漫画家ホ・ヨンマン画伯を日本に招致し、日本各地の食や自然、伝統文化など、各地域の魅力を韓国に向けて発信する事業を行っています。

今回は、2014年2月16日（日）～20日（木）の日程で実施した宮崎県での取材の様子を紹介します。

1 神話のふるさと、「宮崎」への旅

日本最古の歴史書と言われている『古事記』（712年編纂）は天地が創造され、神々が生まれ、日本の島々が生まれるシーンから始まる物語です。その上巻に登場する場所のおよそ3分の2が現在の宮崎県周辺を舞台にしたと言われ、これが「神話のふるさと、宮崎」と呼ばれる所以です。今回の旅は、公益財団法人みやざき観光コンベンション協会が実施主体となり、北は高千穂町から南は日南市まで（訪問順に宮崎市、日南市、都城市、綾町、延岡市、高千穂町）、南国・宮崎県を南北に縦断しながら、古代ロマンの香りとダイナミックな自然、豊かな食を体感する旅となりました。さて、取材団は、この旅を通じて、神々に会うことが出来たのでしょうか？

2 神々の手荒い歓迎!?

この時期、特に南九州では梅や桜といった春の訪れを知らせる花が咲き始めます。一年を通じて温暖な宮崎県の年間平均気温は約17度。年間快晴日数は47日間で西日本一です（宮崎県HPより）。日照時間が長く、野球やサッカーのプロスポーツチームがシーズン前にキャンプを行うことでも有名です。ところが、取材団の宮崎入りに合わせるかのように大寒波が押し寄せ、取材初日から神々の手荒い？歓迎を受けることになりました。



宮崎県内は数年ぶりの積雪となった

3 パワースポット巡礼

今回の旅では、天孫降臨の地・高千穂町をはじめ、神話に縁のあるいくつかの地域を巡りました。神話のふるさとに語り継がれるストーリーとともに紹介します。

(1) 神々に出会う島、青島（宮崎市）

山幸彦とトヨタマヒメを祀る「青島神社」がある青島。島全体に亜熱帯植物が生い茂ります。この海と鬼の洗濯板に守られる霊域は江戸時代まで全島が禁足地で、周囲約1.5kmの島を歩くと、ピロウの林や鬼の洗濯板、奇岩群など印象深い風景が広がります。

規則的に重なった地層が波によって階段状に浸食され、巨大な洗濯板のように見える風景を眺めながら、ホ・ヨンマン画伯も自然の力の凄さに驚いた様子でした。



鬼の洗濯岩（右奥）の説明を受ける画伯ら



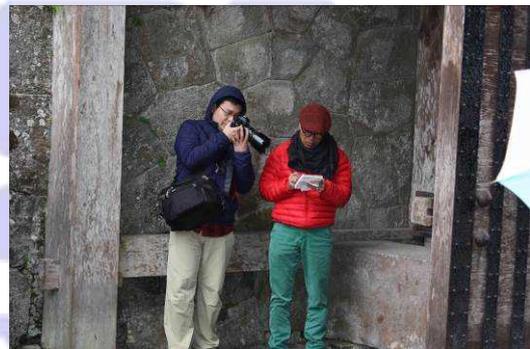
パワースポットを前に

(2) 歴史を見守り続ける城、飫肥城（日南市）

飫肥（おび）は、九州の小京都と呼ばれ、戦国時代には、島津家と伊藤家の間で 80 年にもわたる争いが続きました。伊藤氏は島津氏に敗れこの地を追われましたが、1588(天正 16)年に大名へと復活し、その後約 280 年間、飫肥の地を治めました。飫肥城は、戦国初期に築城されたと言われ、1871（明治 4）年の廃藩まで、14 代続いた伊東家の拠点となりました。



いざ、飫肥城へ



飫肥城を前にスケッチする画伯

飫肥に古くから伝わる弓競技、「四半的（しはんまと）」を取材団も体験しました。これは、戦国時代の武士たちの遊びが現在まで受け継がれたものです。的までの距離が四間半（約 8.2m）、弓矢の長さが四尺半（137cm）、的の大きさが四寸半（約 13.7cm）とすべてが“四半”というのが名前の由来です。四半的は初めて、という画伯でしたが、次々に的の真ん中を射抜き、周囲を驚かせました。これも神々の仕業だったのでしょうか。

また、飫肥城及び城下町のすべてを満喫できる企画、～飫肥城下町『食べあるき・町あるき』～にも参加しました。地元の美味しい特産品を味わいながら、飫肥城下をすみずみまで満喫できる企画です。専用のマップには飫肥めぐりにオススメのお得なチケットが 5 枚付いていて、36 店舗から好きな食べ物やお土産に交換でき、町全体で訪れる人をもてなしています。



四半的を体験する画伯



「食べあるき・町あるき」マップ

(3) 大自然がつくり上げた溪谷美、高千穂峡（高千穂町）

阿蘇山系の噴火活動で流れ出した溶岩が数万年かけて侵食され、ダイナミックで美しい溪谷美が生まれました。高さ 100m にもなる柱状岩の壁から水がとうとうと流れ落ちる「真名井（まない）の滝」は国の名勝・天然記念物です。ボートに乗って、真名井の滝のすぐ下まで近づくことができ、川面から見上げる光と影が織り成す溪谷美は大迫力です。



九州オルレ（トレッキング）のコースにもなっている



真名井の滝

(4) 神が隠れた天岩戸を拝観できる、天岩戸神社・天安河原（高千穂町）

天岩戸神社は、太陽神アマテラスオオミカミが隠れたという洞窟・天岩戸を御神体とし、西本宮の裏手に遥拝殿があります。溪谷を挟んで対岸に見える天岩戸を拝観でき、岩戸川沿いには、世の中が闇に包まれた時に神々が話し合ったという「天安河原」があります。ここは、パワースポットといわれており、神々しい雰囲気なたたえています。神秘的な空間に身を投じた取材団も何か不思議なパワーを感じている様子でした。



神楽殿前にて



神々しい雰囲気漂う天安河原

(5) 自然の恵み、自然生態系のすばらしさ (綾町)

綾町は、2012年7月、ユネスコにより「綾ユネスコエコパーク」として登録されました。綾町に残る照葉樹林の価値と、長年にわたり自然と人間の共生を目指した地域づくりが認められた証しです。いち早く自然生態系農業（有機農業）を推進し、町内で生産された有機農産物は「綾手作りほんものセンター」で販売されています。生産者の話を聞いた取材団は宮崎の豊かな食について、あらためて認識を深めました。



綾の照葉大吊橋



生産者の話に聞き入る取材団

4 旅の疲れを癒すおもてなし

旅の魅力はいろいろありますが、旅の中で多くの時間を過ごす場所の1つが宿ではないでしょうか？今回の旅では、古代ロマンを感じさせる宿から近代的で居心地の良いホテルまで、様々な素顔を持つ宿でそれぞれの「宮崎」を体感しました。

(1) 地蔵庵 (2/16、宮崎市)

宮崎市内では唯一の純和風・温泉旅館。温暖な気候と、美しい日南海岸を目の前に臨む風光明媚な場所に立地しています。宿に一步足を踏み入ると、そこは別世界。木の温もりを感じる館内は、やわらかい行灯の光が足元を照らし、客室は和とアンティークが絶妙に融合した独特の雰囲気が漂い、不思議と懐かしい雰囲気が旅人をやさしく包みます。



地蔵庵 外観



ノスタルジックな雰囲気のある館内

離れの各部屋には温泉の露天風呂があり、泉質（低張性アルカリ性冷鉱泉）は全国でもトップクラスでそのヌルヌル感から「美人の湯」として知られているそうです。そして、何より取材団をうならせたのは地蔵庵風懐石料理。青島の旬の素材をふんだんに使った料理は、取材団に「日本人はこんなに美味しいものを、毎日こんなにたくさん食べるのか!？」と言わせるほどでした。カメラマンが料理に食い入るようにシャッターを切る姿が印象的でした。



地蔵庵風懐石料理



食べることも忘れて撮影

(2) シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート (2/17、宮崎市)

154メートルにも及ぶ45階層のプリズム型ホテルの全客室から、太平洋と名門ゴルフコースが一望できる、この全室オーシャンビューには取材団も驚きを隠せませんでした。満月の夜には、海から月が昇りはじめると、月光が海に映り、月へと続くように見える「月の道」が現れます。自然が作り出す最高の贅沢に旅人達は皆癒されるそうです。一帯を覆う松林の中から湧き出る温泉もひと味違う寛ぎを与えてくれます。



最上階からオーシャンビューを満喫



温泉（右下）の説明に聞き入る取材団

晩餐の席では、宮崎牛や極上きんかん「たまたま」をはじめとする宮崎ブランド食材を堪能しました。中でも取材団の目をひいたのは、宮崎県の代表的な郷土料理「冷や汁」の実演調理でした。新鮮な地元の食材を手際よく調理する料理人の手さばきにくぎ付けとなりました。



冷や汁の実演調理を撮影



完成した冷や汁

(3) さざれ石高島 (2/18、延岡市)、四季見 (2/19、臼杵郡高千穂町)

すべての部屋から北浦の美しい海と景観が一望できるさざれ石高島では地元で採れたばかりの海の幸、山の幸をふんだんに使った料理と海を眺めながらの貸切り露天風呂で身も心も癒されました。

地元の食材を使った健康に良い郷土料理「蘇食」をコンセプトに旅人をもてなす四季見では、特に釜炊きごはん、山菜の佃煮など 10 品ほどが並び評判の朝食、そして夕食時には番頭頭自らが歌う刈干切唄が旅の雰囲気盛り上げました。青竹に焼酎を注ぎ焚火にかけ燗をつけたカッポ酒（高千穂町が発祥地とされている）も振舞われ、旅人達の満足度は自ずと高まりました。



海の幸、山の幸をふんだんに使った料理（さざれ石高島）



カッポ酒（左）、刈干切唄を唄う番頭頭（右）（四季見）

6 最後に

今回の宮崎取材では、神話のふるさとを巡り、地元の方々の温かいおもてなしの気持ちに触れながら、ダイナミックな自然造景や温泉、豊かな食といった自然の恵みを体感しました。今回御紹介した以外にも宮崎県にはまだまだたくさんの魅力があります。これらの取材内容は、アジアナ航空の機内誌「ASIANA」にも今後、掲載が予定されています。また、今年夏頃に単行本としても出版が予定されていますので、ぜひご覧ください。

●参考ホームページ（主なもの）

宮崎県ホームページ

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/index.htm>

神話のふるさと宮崎

<http://www.kanko-miyazaki.jp/shinwanofurusato/index.html>

公益財団法人みやざき観光コンベンション協会

<http://www.kanko-miyazaki.jp/index.html>

（古殿所長補佐 鹿児島県派遣）